

当組合における医療費分析結果 ①

データヘルス計画の策定に伴い、当組合における医療費状況の分析を行いましたので、今回の『共済だより』から、分析結果をお知らせしてまいります。

今回は、組合員・被扶養者数及び医療費総額、並びに組合員1人当たりの医療費について、掲載しています。

■組合員・被扶養者数及び医療費総額、並びに組合員1人当たりの医療費

平成23年度から平成26年度における本組合の組合員・被扶養者数と医療費総額の動きを比較すると、表1のとおり組合員数の減少により被扶養者数も減少し、それに伴い医療費総額も減少しています。

対して、組合員1人当たりの組合員及び被扶養者の医療費を診療区分別にみると、表2から表4のとおりほぼ横ばいで推移しており、組合員の調剤分においては年々金額が高くなっています。

注) 表1から表4の算出に使用した組合員・被扶養者数及び医療費は、各年度末の数値を使用しています。

表1 組合員（任意継続組合員を含む）・被扶養者数及び医療費総額

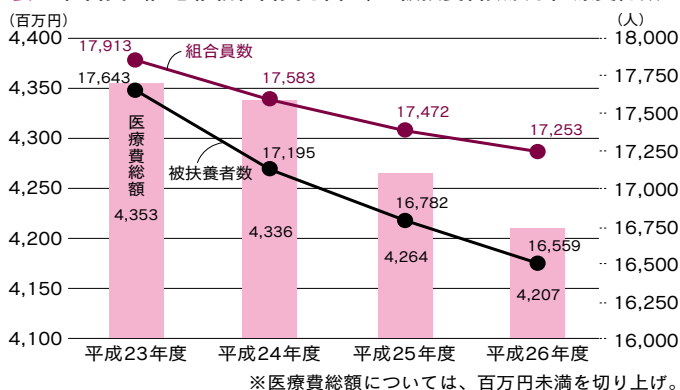


表2 組合員1人当たりの医療費（内科診療分）

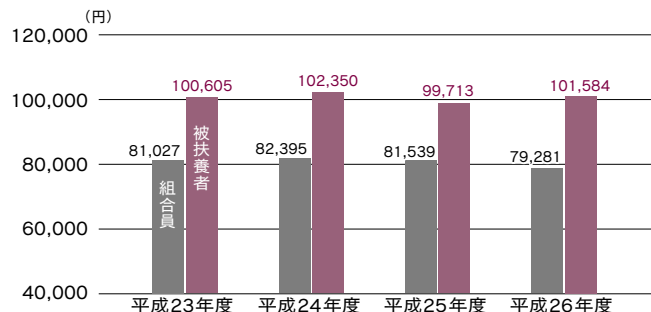


表3 組合員1人当たりの医療費（歯科診療分）

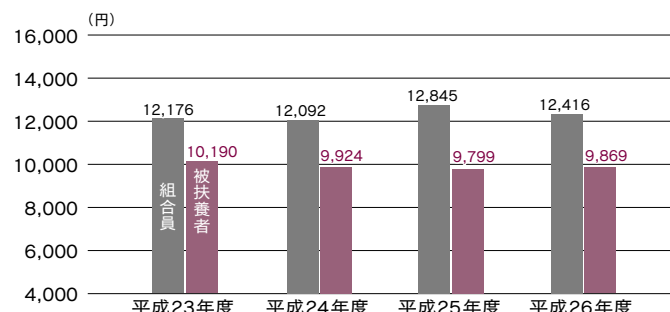
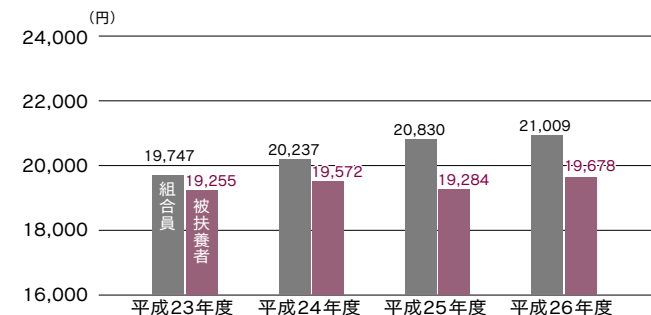


表4 組合員1人当たりの医療費（調剤分）



内科診療分については、被扶養者にかかる医療費が組合員に比べて高くなっていますが、その理由としては、一般的に疾病にかかりやすい年代である乳幼児及び高齢者の割合が、被扶養者に多いことがあげられます。

歯科診療分については、組合員にかかる医療費が被扶養者と比べて高くなっていますが、その理由としては、一般的に歯周病など口腔内疾病にかかりやすい年代である40歳以降の年齢層の人数が、組合員に多いことなどがあげられます。

また、調剤分についても、組合員にかかる医療費が被扶養者と比べて高くなっていますが、その理由としては、薬剤費が高額かつ継続的に必要となりがちである生活習慣病などの慢性疾患にかかりやすい40歳以降の年齢層が組合員に多いことがあげられます。